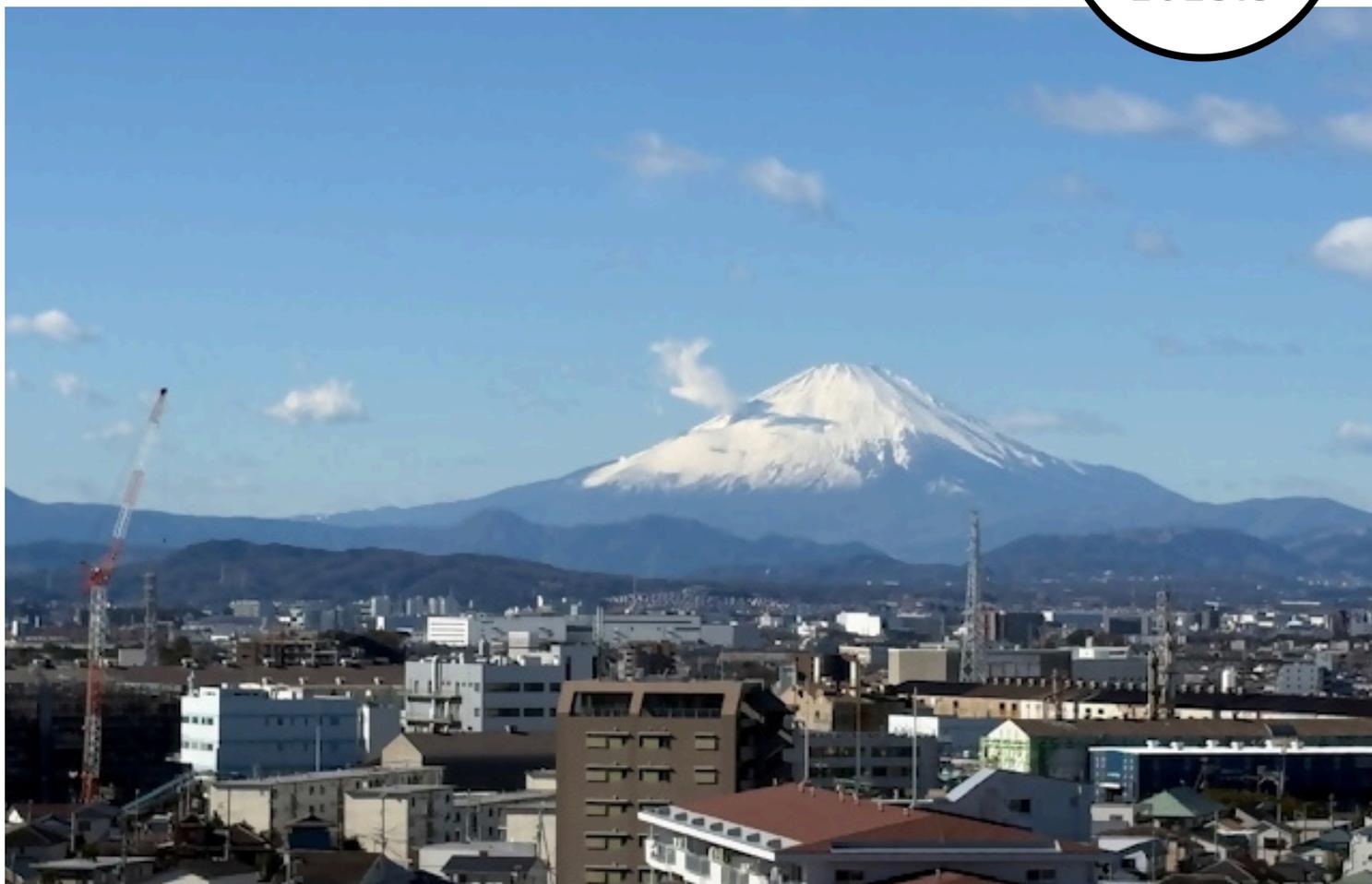


つながり

茅ヶ崎市立病院

～2025年人事異動特集～

51
2025.5



※茅ヶ崎市立病院の屋上から撮影



新たなリーダーが創る 新しい茅ヶ崎市立病院

2025

人事異動特集

MAY, 2025

当院では、年度の切り替えに伴い人事異動や昇格・昇任が行われました。今回の院外報「つながり」では、新しい所属長の紹介と、各部署のトピックスをお届けいたします。各科では新たな取り組みが続々と始まっており、これらの取り組みをご紹介することで皆様に安心して当院をご利用いただくきっかけになれば幸いです。

NEW LEADER

看護部長が副院長に就任。看護部が進める特定行為とは？

2017年から看護部長を務めている山岡看護部長が副院長に就任、看護職の副院長が就任するのは当院では初めてのことです。総勢約400名の看護職員からなる当院の看護部理念は、「“人”をまもり、支える看護」を掲げ、「移行期ケア」を推進しています。また、2024年度「特定行為研修指定研修機関」として認定を受け、院内研修を始めました。「特定行為」とは、より専門性の高い特定の研修を修了した看護職による診療の補助業務であり、現在3名が研修中（4月現在）です。「既に院外研修で修了している6名とともに、この先の多様な医療ニーズに応えていきます」と語るように、今後の看護部の活躍が期待されます。



副院長兼看護部長
山岡 澄代



2024年度特定行為研修開講式の様子

NEW LEADER

メンバー—新の代謝内分泌内科が進める糖尿病教育の取組



昨年11月に行った糖尿病予防イベント



代謝内分泌内科部長
宮下 大介

代謝内分泌内科の科部長として、新たに宮下大介医師が着任しました。横浜市立大学医学部内分泌・糖尿病内科学の医局に所属し、これまでに複数の病院で診療に従事してきた内分泌糖尿病分野の専門家です。当院の代謝内分泌内科が中心になって進める糖尿病教育チーム会議では、多職種が連携して糖尿病教育を行っており、コロナ禍でも市民向けの講座を継続してきました。「茅ヶ崎は健康な方が多いイメージがあるので、その健康づくりの一端を担えれば」と語るように、複数の医師が入れ替わった新たな代謝内分泌内科をけん引していきます。

NEW LEADER

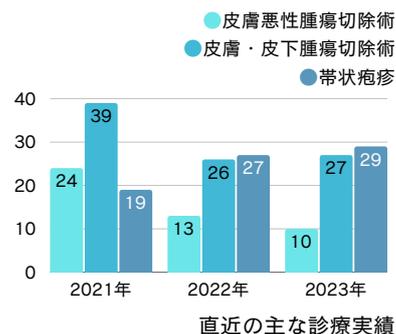
7年ぶりの科部長交代、新体制で診療に取り組む／皮膚科

当院の皮膚科部長が7年ぶりに交代となり、新たに新村医師が着任しました。新村医師は横浜市立大学医学部皮膚科学の医局に所属しており、当院では初めての勤務となります。

当院の皮膚科では、3名の医師が皮膚疾患全般に対応しており、毎月約1,000名の患者さんの診療を行うなど、豊富な実績を有しています。大規模な手術が必要な場合には形成外科と連携するなど体制も充実しています。当院の印象を伺うと「活気があり、院内も多職種が声をかけあって雰囲気がいい」と語り、前向きに診療に取り組む様子が見えられました。



皮膚科部長
新村 智己



NEW LEADER 地域完結型のがん治療を目指して／放射線科

放射線科は前任技師長の役職定年に伴い、桂技師長が新たに就任しました。1988年の入職以来30年以上の放射線科の経験を糧に20名の診療放射線技師をけん引します。

放射線科では、2023年に高精度放射線治療装置を導入し、新たに治療を開始しています。今までの装置と比べ、治療効果向上と副作用軽減を兼ね備えた治療を短時間で行うことができます。「住みなれた地域で、患者さんの負担を最小限に抑えながら高精度の治療を提供するため、多職種が連携して取り組んでいきます」と今後の抱負を語ります。



放射線科技師長
桂 孝英



高精度放射線治療装置

NEW LEADER 人員拡充で地域の方が利用しやすい環境を／リハビリテーション科



広々としたリハビリテーション室

4月にリハビリテーション科技師長に就任した小倉技師長は、「リハビリテーション科は、人員を拡大してリハビリテーションの幅を広げたい」と意気込みを語ります。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士というリハビリの専門家14名を擁するリハビリテーション科では、入院・外来患者さんのリハビリを行うことでその社会復帰の促進を図ります。今年は2名の職員を新たに採用するなど、体制を充実させており、地域の患者さんがより当院を利用しやすいリハビリテーション環境の構築を目指します。



リハビリテーション科
技師長 小倉 一剛

NEW LEADER 地域連携の強化でもっと親しみやすい市立病院を／患者支援センター

2024年から患者支援センターに着任した平山担当長は、もともと周産期医療に携わってきたベテラン助産師です。「地域の医療機関・関係機関と連携し、相互補完する関係性を築く必要がある」と地域完結型医療の推進に向けて情報発信と連携強化に取り組むたいとその抱負を語りました。

患者支援センターには、看護職員20名と社会福祉士を含む事務職員5名が所属しており、妊娠期から小児期～老年期まであらゆるライフステージにある患者さんが住み慣れた地域で療養生活を送れるよう、患者さん・ご家族の相談に応じています。



患者支援センター担当長
平山 淳子



患者さんの様々なご相談にお応えします

NEW LEADER 病院経営企画課長が交代

病院経営企画課は、4名の事務職員からなる経営管理全般の担当課です。経営の安定化という課題に向き合い、患者さんに安心してご利用いただける病院を目指して日々努めています。



病院経営企画課長
小島 敦

NEW LEADER 病院総務課長が交代

病院総務課は、院内の人事や物品・施設の管理を担う病院の縁の下の力持ちです。総務担当と用度施設担当、計14名の事務職員で当院の円滑な運営を支えます。



病院総務課長
島津 順

考えてますか？

ACP

アドバンス・ケア・プランニング

皆さん、ご自身が将来いよいよとなったら、どのような最期を迎えたいか、お考えになったことがありますか。

私は痛いのは嫌だな。寝たきりで意識もない状態になったら人工呼吸器はつけて欲しくない。いや、私はできるだけ延命治療もして努力して欲しい。いろいろなお考えがあることと思いますが、そのような心づもりをどなたかと話し合ったことはありますか。

家族や友人、かかりつけ医などと話し合うときに、縁起でもない、と避けるのではなく、向き合うようにしてみませんか。いざとなった場合に自分の意思を表すことができないこともあります。心づもりは将来変わることもあるので、繰り返し確認するといいたいと思います。年齢を重ねると病気がちになり、治療を受けながら生活していくこととなります。それは、家族や周囲の人の生活にも関わってきます。どのような場所で、どのような医療や介護を受けるのか考えておくことが大切です。

将来、体の具合が悪くなったときに、受りたい、または受けたくない医療行為の希望を表明しておくことを事前指示といい、その内容を文書にしたものが事前指示書と呼ばれています。

人生をどのように生活し、どのような医療や介護を受けて最期を迎えるかを計画して、ご自身の考えを心づもりとして家族や近しい人、医療やケアの担当者とあらかじめ表しておく取り組みをアドバンス・ケア・プランニング（ACP）といい、環境や体調の変化により、繰り返し話し合いを行うプロセスでもあります。

茅ヶ崎市立病院では、市が発行している「わたしの覚え書き」を1階の入院センター入口横に配架しています。お手にとりいただき、家族や友人、かかりつけ医など近しい人と話し合ってみてはいかがでしょうか。



参考出典：公益社団法人 東京都医師会ホームページより



「健やか・共創」

茅ヶ崎市立病院

発行・編集：茅ヶ崎市立病院
患者支援センター

発行日：令和7年5月

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111(代) FAX 0467-52-1133
<https://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp>



病院ホームページ

